

| | |
|---------------|---|
| Title | 語文 第90輯 編集後記/奥付 |
| Author(s) | |
| Citation | 語文. 90 |
| Issue Date | 2008-06-30 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/69111 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

今年の国語国文学会は、きわめて異例でした。まず、新しい企画として午前中から、院生が中心になったワークショップ（「会話文」「地の文」に関する通時的・多角的研究所とその展開」…次号掲載予定）が開催されました。そのあと院生二人の研究発表の後に、島津忠夫名誉教授が、ご希望により研究発表として報告され、その後、この三月末で停年を迎えられた仏文の柏木隆雄先生が会員外でありながら、比較文学的な角度からご講演くださり、それに続いて信多純一名誉教授が、研究生活から身を引く前にと、「浄瑠璃とその展開」という題目でご講演をされたのです。柏木先生については先生の修士論文審査担当以来の縁で信多先生が強く希望され、現スタッフも渡りに船とお願ひしたものです。

場合によっては、国語国文学会が一区切りをつけるのではないかなと思われた会員の方もいらつしやるかもしれません。もちろんそんなことはなく、若手から大家に至るまで、わが研究室の（この際、柏木先生も取り込んで）旺盛な研究意欲の一端が垣間見えたというところに過ぎません。本号は、その当日の研究発表・講演（信多先生の講演内容は別に御著書が用意されているとのこと）で残念ながら収録されませんに、投稿論文が一本加わったものが掲載されました。当日の雰囲気の一部を思い浮かべ（思い出し）て頂ければ幸いです。（出原隆俊）

語文 第九十輯

平成二十三年六月二十五日 印刷
平成二十三年六月三十日 発行

編集・
発行者

大阪大学国語国文学会

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町一―五

大阪大学大学院文学研究科

日本文学・国語学研究室

代表 蜂矢貞郷

振替口座〇〇九四〇―四―二四六四一

電話 〇六―六八五〇―五一二一

印刷 亜細亜印刷株式会社